

出展番号	TYPE
タイトル 団体名称	幼少期から学ぶ住安全・防災教育 動機付け教育のしかけとして、絵本、かるた、副読本、 HP、e-learning、まんが 
代表者	石川孝重 http://momi.jwu.ac.jp/~jyu-ishi/isikawa/index.html
連絡先	〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学 住居学科 石川研究室 TEL 03-5981-3462 FAX 03-5981-3453 E-mail ishihawa@fc.jwu.ac.jp
活動概要	* 目的 防災には行政や専門家の果たす役割も大きい、実効をあげるには何よりも市民の意識を高める必要がある。しかしこれが一番難しく、大地震経験後も、社会的に防災行動が活発になっているとはいえない。市民の防災行動へとつなげるために「動機付け教育」をどのように行か、模索を続けている。論理的な学習は系統だった学習とある程度の期間が必要である。しかし動機付け教育はその前の段階である。その時に必要性を強く感じ、教材を手取るまでになってくれなければ、その先の学習はない。防災教育はこの段階にあると考えている。そこで、動機付け教育の「しかけ」として、教材制作を試みている。 * 取り組みの概要 対象年齢によって、媒体や表現方法を適切にする必要があり、制作した表現形態は絵本、かるた、副読本、HP、e-learning、まんがなど多岐にわたっている。 1) 絵本やかるたは主に就学前の子どもを対象に制作した。大人が子どもに絵本を読んであげることから、巻末に保護者向けの解説をつけ、学習ポイントを示した。最近では、幼稚園で読み聞かせを行ない、直接子どもの反応を観察し、先生にヒヤリングを行なう等、現場ニーズを反映した絵本を制作している。 2) 副読本は小学校1、2年生が学習する生活科のものを制作した。学習指導要領の分析から、総合的な学習の時間(同3年生以上)の前に位置付けられる本科目で、防災教育を行える可能性があることがわかった。あわせて学習指導要領と連携させた指導書も制作し、教師向けにこちらの制作意図を表現した。 3) HPやe-learningは、若者や大人、家族向けのものとして制作した。帰宅困難について紹介したHPや、家族で自分の家の耐震補強を考えてもらうe-learningを制作し、公開した。 4) まんがは高校生～30代向けとし、防災が前面にでるストーリーでなく、普通のまんがとして恋愛ストーリーを読んだら、その流れで防災知識が身につくという趣向にしている。 * 活動の効果 ・絵本やかるたは就学前の子どもを対象に制作したが、ヒヤリング調査の結果、絵本の場合読み聞かせを行う大人が防災の知識がほとんどなく、「読み聞かせるのに防災の知識が必要である」「何も知らないまま読むのは心細い」といった現状が明らかとなり、保護者向けの解説ページも制作し、あわせて大人を教育する役割も果たす。子どもを通して家庭への波及効果がある。 ・既に防災教育が行われている幼稚園で絵本の読み聞かせを行ったところ、年長組の園児の場合、これまで体得してきた訓練内容が、頭の中で系統立てて整理される様子が観察された。 ・絵本のイラストが、春の火災予防週間のポスターの絵に千葉市で採用された。幼稚園等、子供向けの施設で好評であったと聞いており、社会の教育啓発に役立った。 ・耐震偽装問題が社会的にクローズアップされた頃に、ネット上に公開しているe-learning『今、家族と一緒に耐震補強を考える。』などへのアクセス数が倍増し、多くの人に関連された。ネットによる教材提供は市民が興味を持てばみてももらえる可能性がある。事件も動機付けのひとつであり、的確な教材を社会に提供することも専門家として必要な役割である。 ・従来型の防災教育まんがと趣向を変えて制作したまんがでは、途中で出てくる防災の話よりもストーリーにうながされ、最後まで読んでもらえるものとした。あまり防災に興味を示さない若い年代に対して、ひとつのツールになることがわかった。 以上のように、子ども・市民向け教育として、防災のほか環境や住宅性能もテーマに制作している。いずれも市民向けの説明や専門家と市民をつなぐ橋渡し、また動機付け教育としての役割である。絵本は必ずしも子ども用のツールではなく、環境をテーマに中学生向け絵本も制作した。どの年齢層に何を伝えたいのかによって、表現方法は決まってくる。特に防災は自分の問題として考えられるかが重要であり、年齢に応じた身近性(=自分の問題)を伝えられるかが教材制作には必要になる。
組織概要	この取り組みに関わっている「種考房」の主なメンバーは、石川孝重(日本女子大学)、平田京子(日本女子大学)、伊村則子(武蔵野大学)、久木章江(文化女子大学)である。 

